

ハカタカラクサ

ハカタカラクサは、メキシコ産の多年草のツククサ科の植物です。銀白っぽい葉の表面に暗い紫の縦縞模様があり、その色彩の対比の鮮やかで観葉植物としては人気があります。観賞価値の高いものです。

私がハカタカラクサと始めて出会ったのは、北海道立理科センターでした。鑑賞用もいいのですが、理科教材として実に興味深いものがあるのです。それは、

1. 不定根が出てくる

茎が伸びてきたら、節の所で斜めに切り、それを植えます。するとそこから新たな根が出てきます。こうすることによってどんどん増やすことができます。

2. PHの指示薬になる

酸性・アルカリ性の指示薬としてBTBやリトマス試験紙の変わりに紫キャベツで実験をしたことのある方もいると思いますが、このハカタカラクサもPHの指示薬になります。この草の紫の成分である、アントシアニンが酸性、アルカリ性に反応します。酸性には赤く、アルカリ性には黄色（弱アルカリは緑）に変わります。



3. 気孔の観察

葉の裏面の気孔（水を蒸発させる穴）の観察には最適です。



育て方

- ・春、秋は日光が当たる所に、夏は直射日光をやや避けた方がよろしいと思います。
- ・水は、やり過ぎず、乾いた頃に与えます。
- ・節のところで斜めに切って、植えるとどんどん増やせます。
- ・冬は - 5度まで耐えますが、室内で5度以下にならないところにおきます。
- ・付属の青い水は、ハイポネックスの500倍液です。水分がなくなったら与えてください。ただの水でもいいです。
- ・私は咲かせたことがありませんが、春から夏にかけて写真のような花をさかせるそうです。きれいに咲いたら教えてね。
- ・今回の容器は学内で拾い集めたペットボトル、100円ショップのスポンジ、それにパーミキュライト（無菌人工鉱物用土）を使いました。

学校教育専攻 佐々木 朗 hs4953m@cc.hokkyodai.ac.jp